

令和7年度 稲沢市地域自立支援協議会 第1回本会議 議事要旨

【日 時】令和7年11月4日（火）午後2時～午後3時30分

【場 所】稲沢市役所 東庁舎1階 会議室8

【出席者】本会議委員 9人 事務局 7人

【欠席者】なし

あいさつ（会長）

【議 事】

1. 議題

（1）運営会議等の実施状況について（事務局から説明）

委員A 児童発達支援センターの中核機能はどのようなものか。

委員B 地域との連携になるが、中核機能としてどのように進めていくか、まだはっきりしていない。地域で困っているケースに、センターとして対応したい。

委員A 事例で挙げたお子さんが最終的に自立できるように何をしたらいいか、連携しようというだけではなく、児童発達支援センターが中心となり、どのような環境を作っていくかを具体的に考えていくといい。子どもを変えていくことに終始してしまうと難しさがある。背景や環境を社会モデルで考えていかないといけない。言語だけではなく、コミュニケーションツールを持てるよう、意識できるといい。

（2）分野別部会の実施状況について（事務局から説明）

・地域生活支援部会（部会長から報告）

委員C あらかるとの事業所紹介ページを見ると、何の事業所か分かりにくい。事業所によって書きかたがさまざま、書きかたを統一したほうがいいのではないか。

委員D 以前は事業所独自で作成し記載していたが、今回から事業所紹介ページの上部は記載項目を統一し、下部に事業所のPRを記載している。たくさん書いている事業所もあれば、空白が目立つ事業所もある。内容が少ないところは、QRコードを読み込む等の必要がある。あらかるとだけを頼りにすると、現状、情報不足は否めないため、精度をあげていきたい。

委員A 利用者の母から、放課後等デイサービスの利用者の学年層が気になると意見がある。個人情報に支障のないかたちで分かる方法があるといい。また、障害について家族も学べる機会についての話で、具体的な内容はあるか。

委員D 強度行動障害や支援のむずかしいかた等の保護者が、互いに困りごとを話し合い、学ぶ機会があるといいと考えている。

委員A 具体的なものはまだないか。（ない）

強度行動障害を予防する、また、なってしまった場合にできることを具体的に考えたほうがいい。学びのひとつとして、コミュニケーションスキルやコミュニケ

ーションツールを学べるような場を具体化していただきたい。

会 長 いろいろなケースがあり、これが正解ということはないが、ケースバイケースで関わっていかなければいけないと思う。

・就労支援部会（部会長から報告）

委員 A 障害者フォーラムの周知方法はどのように行っているか。

委員 E 市から各支援事業所等に告知している。一般のところへはまだまだ告知不足だ。

委員 A チラシは、どの程度作成したか。

事務局 稲沢市商工会議所を通じ、企業に 2,200 部配布した。祖父江と平和の商工会議所からも配布している。市の SNS や市内商業施設 2 階のコーナーにチラシを設置している。

委員 A 私は、出前講座で偶然チラシを見て知った。親の会では誰も知らなかった。新しい取り組みであり期待感がある。いろいろな関係機関に来ていただくことが大切だ。SNS で関心のあることをフォローすると、関連する情報が入り、そこから研修会を見つけたりしているので、そういったものを活用するのも一案だ。

委員 E 市や各事業所で SNS にも情報をあげている。

委員 A 日頃からいろいろな情報をあげるとヒットにつながることもあると思う。

会 長 新しい試みなので、いろいろな人に参加していただけたらと思う。雇用側が動かないと就労支援にならないので、雇用できる企業をもっと増やしていかなければいけない。

委員 E 来年に向けて試行錯誤できるといい。

委員 A 親の会で、就労がうまくいかない課題を抱えているグループがあるので、申込みたい。

・権利擁護推進部会（部会長から報告）

委員 C 障害者虐待に関して、養護者向けの研修の話が上がっているが、イメージがつかない。誰に対し、どんな研修を考えているか。

委員 F 児童虐待の場合、子育て支援で考えられるが、大人の障害者に対しどういう形でやっていくか、具体的には決まっていない。

委員 C 障害者虐待防止法では、養護者の支援も目的としているが、虐待をしている養護者家族に広く研修を行い、これは虐待に該当する、ということをするのは難しい。啓発として考えているのか。例えば、町内会や民生委員向けにそういう時はいち早く通報してほしいという研修をイメージされているのか。虐待をしてしまうほど困っている養護者に対してサポートできる研修があるのか、部会でもう少し話を詰められてはどうか。

委員 F 虐待の可能性のある家庭に接近していくのは難しいと感じている。

委員 C 養護者虐待を予防する研修かなにかを考えられるといい。

・こども部会（部会長から報告）

委員 A 部会で出た意見はどこで知ることができるか。市の HP の議事要旨は、数か月前までのものしか載っていない。部会でどんな意見が出て、どんな対策が練られたかを知りたい。もう少し内容が把握できると会議に臨みやすい。議事要旨の掲載が間に合わなければ、資料として添付していただきたい。

会 長 情報共有が一番基本になる。皆さん忙しいが、できるだけ共有していけると良い。

### （３）事業所連絡会の実施状況について

委員 C 就労選択支援を使って、もっと働きたいと思っている人たちを、どう働けるようにしていくか、地域としての取り組みが求められる。アセスメントだけでなく、A型やB型事業所を利用する人たち含め、より働けるようにしていくために、就労選択支援をどう機能させるかが課題になる。

また、児童発達支援センターができたから OK でなく、これからだ。本人の発達支援だけでなく、家族支援、地域支援と権利擁護という 4 つの柱をちゃんとやっていくこと。強度行動障害の予防や人材育成など、地域での体制を作っていく必要がある。

そして、一番大きな話題は人材不足。人口減少が言われているが、障害者は増えている。支え手が減るだけでなく、特別支援学校の教室が足りず、福祉の現場では支援者や看護師も足りない。ただ、量が足りないことばかりクローズアップされるが、問題は質が足りないことで、人をどう育てていくのが大きなテーマだ。強度行動障害のかたを支援できる人材を確保しなければならず、医療的ケアも、意識ある人たちを集めないと支えられない。先日行われた医療的ケア児支援ネットワーク会議の中で、保育園では刻み食ができるが学校ではできないと言われたことが話題となった。互いに違う部分を攻め合っているが繋がらないので、学校は刻み食をしてもらえないことを理解しないと連携できない。一方で、刻み食ができなければ母が毎日学校に行かなければいけないのは、インクルーシブではないし、保護者は働けない。「学校ではできない」ときにどうこの子を支えていくか、できない理由を探すのではなく、どうするかを話し合う会議にしていきたい。

会 長 障害のあるかたと一緒に仕事をする時に、どうしてできないのかを考えるより、どうしたらできるのか考えたほうが面白いと考え、仕事をしている。当事者が何を求めているのか汲み取れるといい。コミュニケーションを取ることが得意な人と苦手な人、いろいろな人がいるなかで、一人一人違うとつくづく感じている。自立支援協議会として何をどうしていったらいいか、大きな課題だ。意見交換す

ることで道が開けていくと思う。

委員A 人材について、もちろん質が大切だが、どんな質の人が必要か、人材を育てることができるのか。もし、できないならどんな人を呼んでくればいいのか。どういうスキルや能力を持った人たちを育てるのかを考えなければならないのではないか。教育では、今はユニバーサル化で、この子だけを変えましょうという考えではなく、皆ができることを探っていこうという方向性だが、なかなか進んでいない。一度にはできないが、どんな質を求めていくのかを考える必要がある。

委員G 法務局では障害者のかたの人権に関する啓発や相談を受けているので、必要に応じて情報共有していきたい。

委員H 障害者のなかには、やってもらって当たり前という人が結構いる。そういう考えかたが少しずつなくなるように、障害者でもこういうことができる、ということをやっていけるような当事者組織にしていきたい。